

■小関与四郎著★春風社刊

写真集「クジラ解体」

春風社から写真集「クジラ解体」が61年に撮影されたマツジラ解体」が発刊され、コウクジラの解体写真など、貴重な写真が収められた。

同本は各方面から高い評価を得る写真家の小関

与四郎氏が千葉県和歌山県の太地、宮城県の鮎川のクジラ解体の様子やそれに従事する人々の暮らしと風土を四半世紀かけ撮影したドキュメンタリー写真集である。

古式捕鯨の史跡や出港を待つ漁師のほか、クジラ料理や太陽に照らされ黒く輝くクジラ、供養のための鯨塚など、クジラとともに生きる日本人の姿をありのままに写している。

捕鯨禁止になる前の昭和

新刊紹介

クジラと人の営み見つめる

構成は「古式捕鯨太地の今」「マッコウクジラ解体昔日」「鯨が浜に打ち寄せて」「沿岸捕鯨鮎川港」「和田浦港とツチクジラ」。

小関氏は昭和10年、千葉県生まれ。48年に「写真集 十九里浜」(木耳社)で日本写真協会新人賞を受賞。平成16年の「九十九里浜」(春風社)は雑誌などで大きな反響を呼んだ。

A4判、208ページ。
価格は1万5750円(税込み)。

▽問い合わせ先・春風

社 ☎045-1261-3168、FAX045-1261-3169

